

輝け 田底っ子

第 25 号

文責：校長 益永 一幸

令和4年度 田底小 チャレンジ目標

- ①最後までがんばろう ②上手に伝え合おう ③自他を大切にしよう



スイミングクラブを利用した水泳授業～アンケートのご協力をお願いします～

プール施設の老朽化による民間スイミングクラブを利用した「プール再編モデル事業」は、今年度はあと1回の授業を残すのみとなりました。子どもたちにとっても学校にとってもとてもメリッとの多い事業であったと思います。天候や水温に左右されず、安全に授業ができました。マリンクラブからのインストラクターが2～3人ついて専門的な指導をしていただき、随分と上達している姿が見られました。学校にとってもプールの管理（水質・監視）がなくなった分、仕事の削減につながりました。

次年度以降の継続のために、市教育委員会よりアンケートの依頼がありました。先日プリントでお願いしていますが、ぜひアンケートのご協力をお願いします。プリントが見当たらないという方は、右のQRコードからアンケートフォームで回答できます。9月9日までです。



体育館改修工事が行われています



夏休みに入ってから、本格的に体育館の改修工事が始まりました。そのため、正門駐車場は工事事務所及び工事車両の通り道ということで、学校関係者は立ち入り禁止となっています。

保護者が来校される場合は、駐車場は給食室前1台分、東門側に2台分用意しています。予備として、コミセンも利用可能です。正門に1m幅の通路を通して職員玄関からお入りいただきますようお願いいたします。

色鮮やか「ひまわり」

運動場側の花壇一面に大輪の花を咲かせている「ひまわり」です。1学期に環境委員会の皆さんが種まきをして、夏休みの間に大きく成長していました。田底小の2学期のスタートを待ち望んでいたかのようです。ひまわりたちから「明るさ」「元気」をいただきました。保護者の皆様もご覧になられてください。



「お手伝い」させてますか

～お手伝いの経験が「生きる力」をそだてます～

「お手伝い至上主義で行こう！」(三谷宏治著/プレジデント社)に、お手伝いは「就職力」をアップさせるということが書かれていました。そのエピソードとして以下のようなことが書かれていました。

最近、ある会社でのこと。大学卒の新入社員が配属されて数か月後、配属先の管理職からクレームが上がってきた。曰く、その配属された新人たちは、「気が利かない」「段取りが悪い」「口ばかりで動かない」「感謝しない」。要するに社会人として使い物にならない。困惑した人事部は改めて社内調査を実施した結果分かったことが一つ。「使える」と言われた新人は、子どもの頃に親のお手伝いをした経験があり、「使えない」と言われた新人はお手伝いをしたことがないという事実だった。

お手伝いの経験と仕事力はどう結びつくのか、はっきりとしたことは分かりません。しかし、お手伝いというのは、親から家庭内の仕事の一部を任される経験です。その過程で、「コミュニケーションする力」「責任感」「段取りする力」「計画する力」「問題解決する力」「最後までやり遂げる力」などが、自然に身につくことが予想されます。

私のお手伝いのエピソードとして一番印象に残っていることは、小学校1年生時の「おじいちゃんの介護」を任されたことです。お風呂に一緒に入るといってお手伝いですが、その時のおじいちゃんは風呂に入ると睡魔に襲われるという現象が出ていましたので、おじいちゃんがお風呂で事故に遭わないようにするという大事な命にかかわる指令でした。実際、おじいちゃんは何度も眠り込んでブクブクと沈むことがあり、その都度、親を呼び助けました。命に係わるお手伝いを必死になってやった記憶があります。今になっては、その時に自分に任されたということが責任感として育ったような気がします。



←「とても甘くて、おいしかったよ！」 **パイナップル**

8月30日(火)に地域の理髪店の富田様より、パイナップルの実がついた鉢をいただきました。家に置いていたこのパイナップルを見て、通りがかった子どもたちの「食べたい。」とつぶやいたことがきっかけで、ぜひ「食べさせたい。」という思いで、わざわざ学校にもってきてくださいました。9月1日の昼休み時間、たくさんの試食希望者がホールに来て、「とても、おいしい！」と言って笑顔で食べていました。

